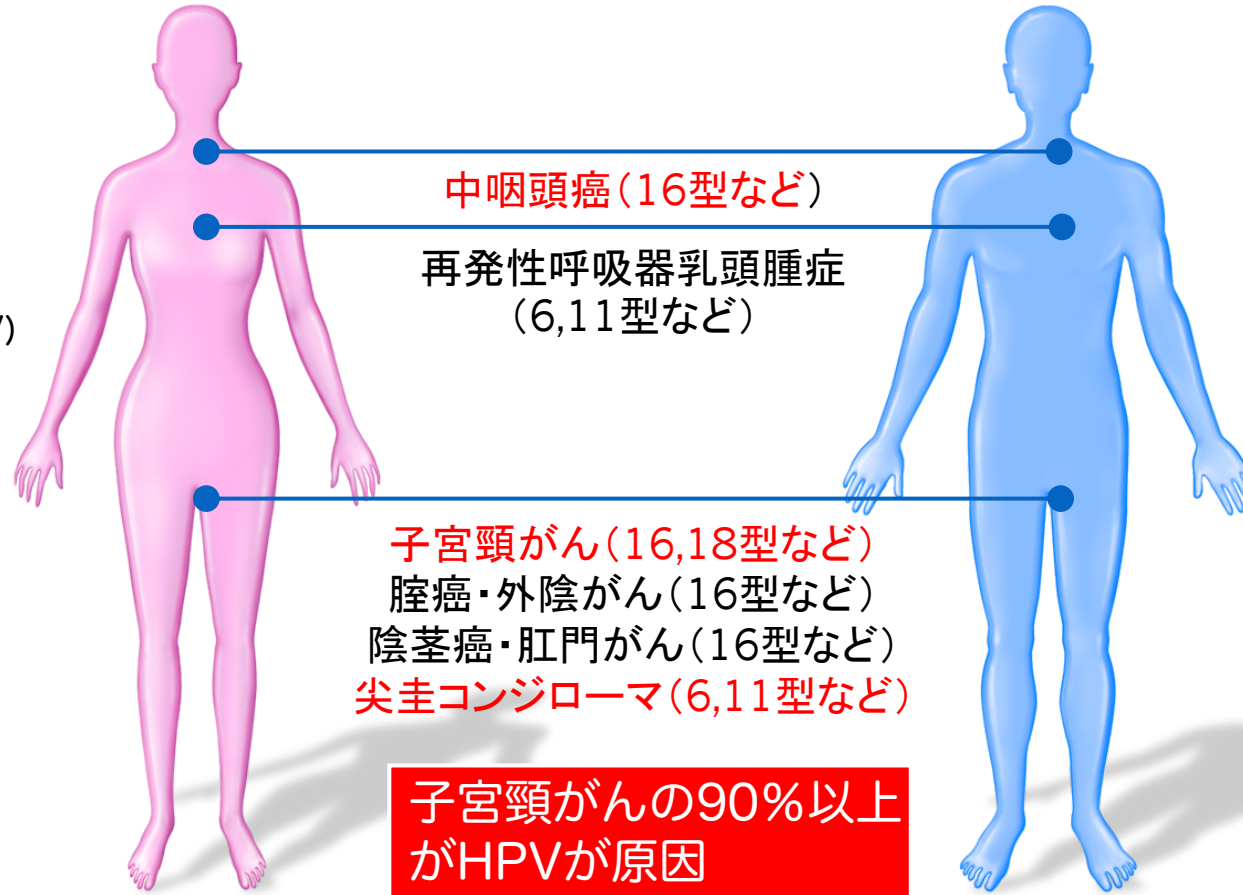


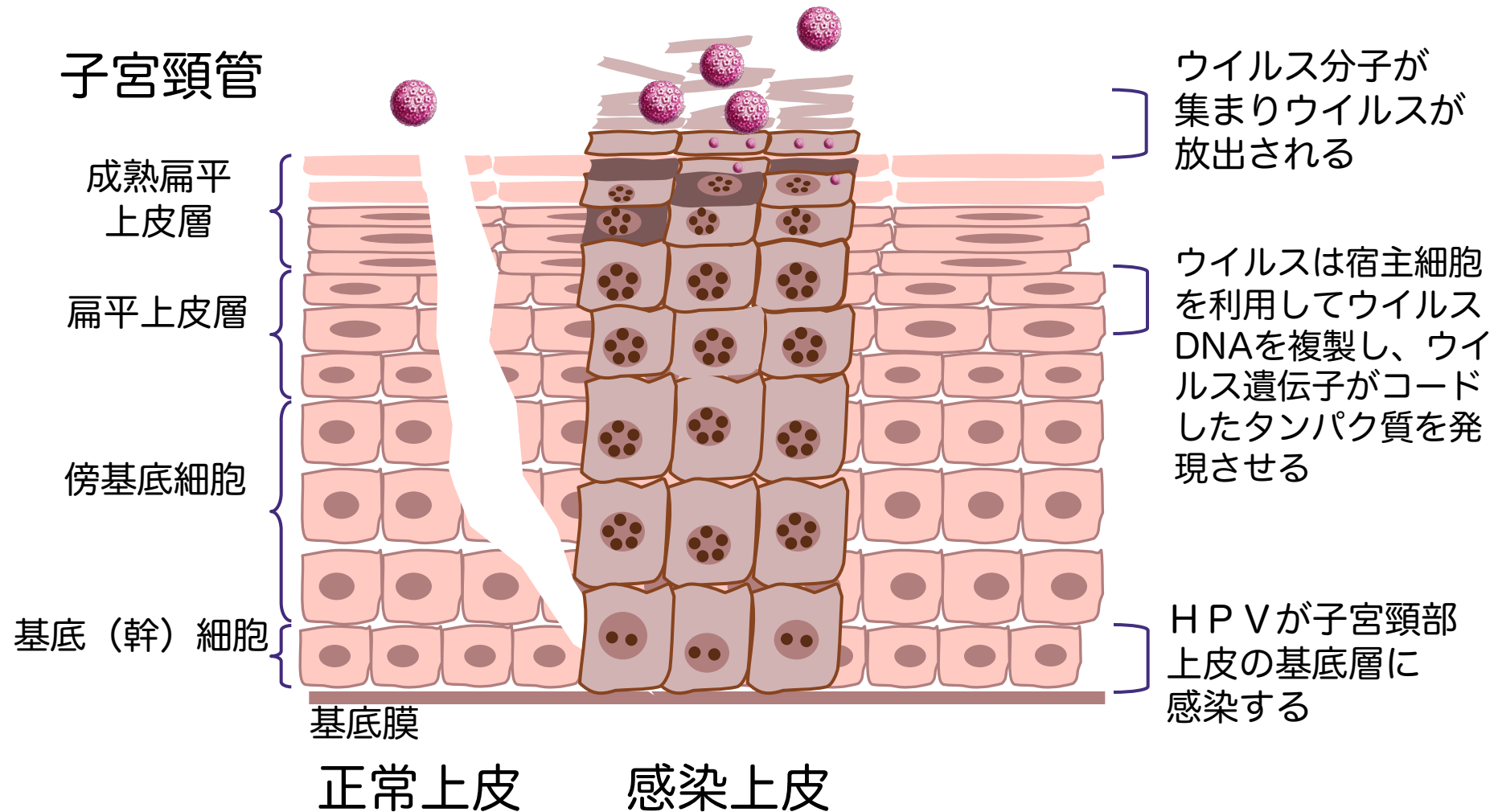
HPVは多くの疾患に関連している



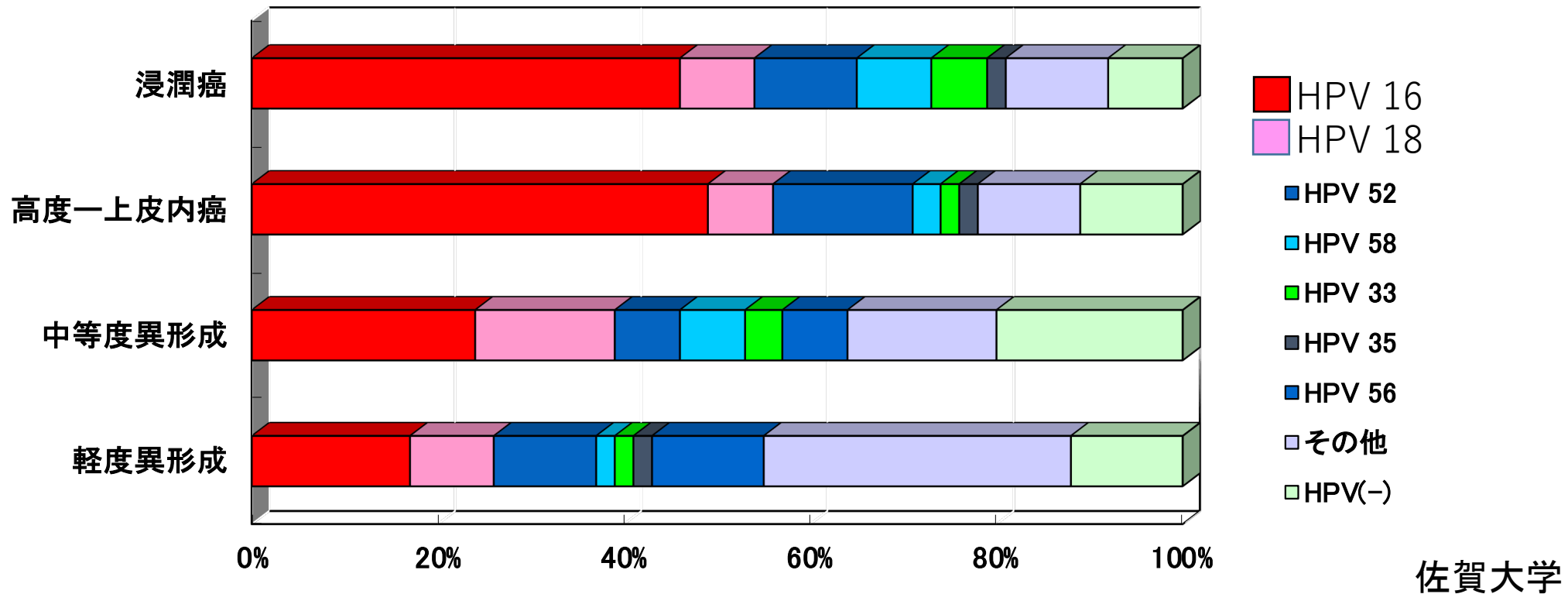
ヒトパピローマウィルス(HPV)



子宮頸部内におけるHPVのライフサイクル



子宮頸部病変において検出されるHPVの型

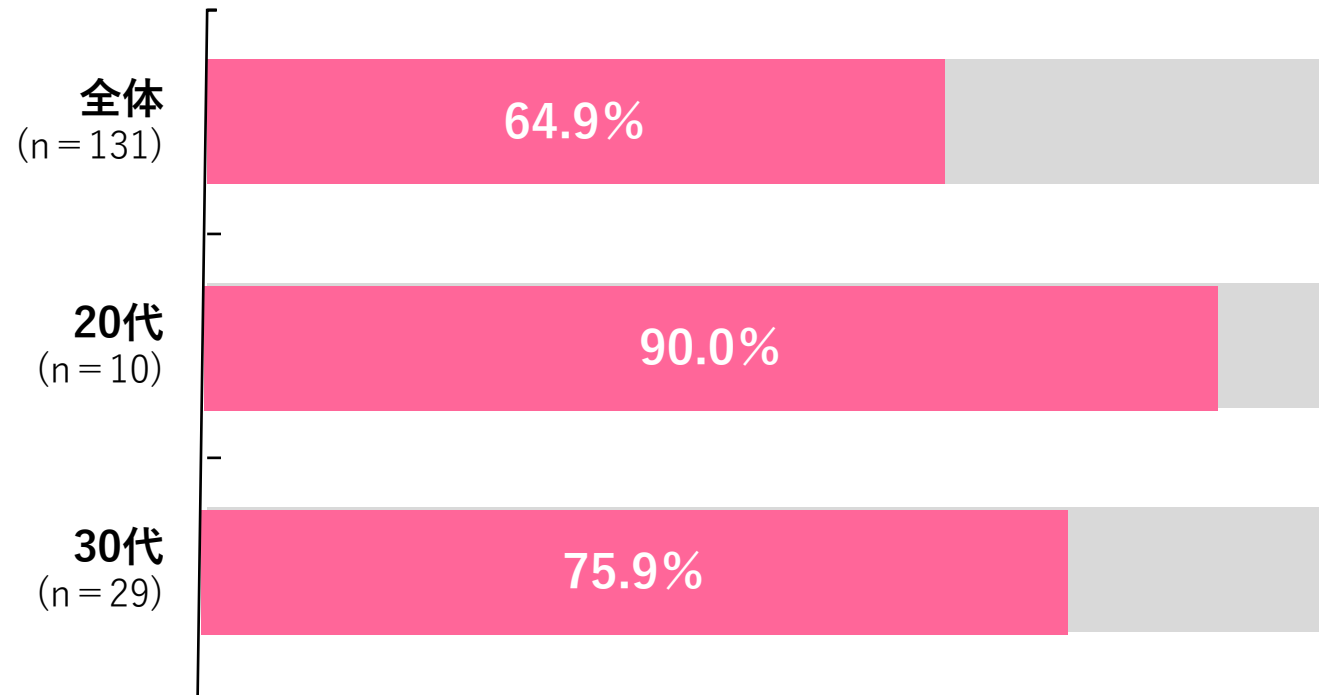


子宮頸部病変の約90%にHPVが検出される
病変が強くなるにつれて、HPV16/18の割合が増加する

子宮頸がんの約65%はHPV16型と18型が原因

- HPV16型と18型が感染した病変は、他のハイリスク型と比較して進行が早いと言われている。¹⁾
- 子宮頸がんを発症した日本人女性のうち、**20代の90%、30代の75.9%**はHPV16、18型が見つかっている。

<子宮頸がんにおける16、18型の占める割合²⁾>

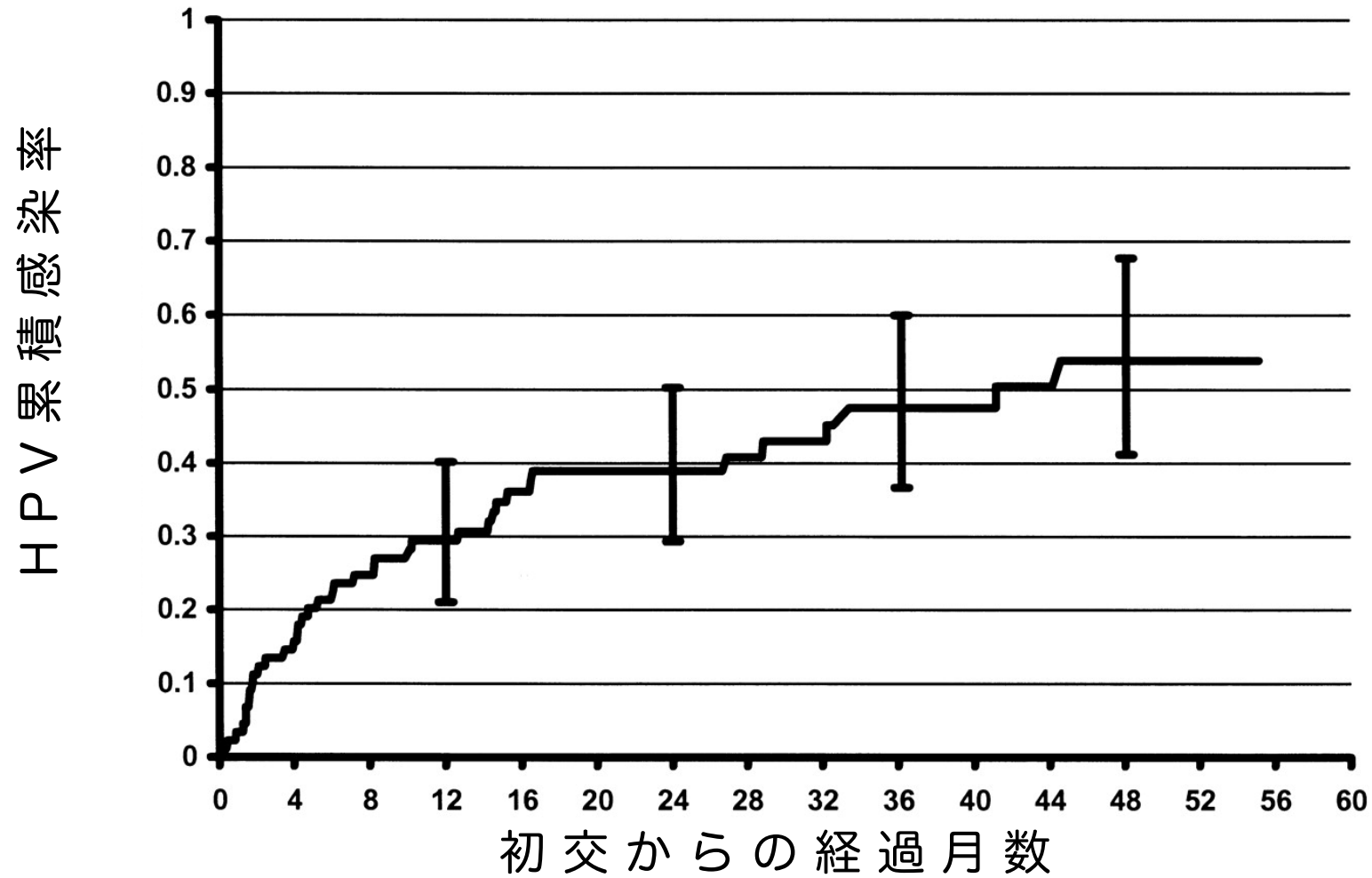


1) Khan MJ, et al.; *J Natl Cancer Inst.* 97(14):1072-1079,2005

2) Onuki Met et al. *Cancer Sci.* 2009;100(7):1312-1316 より作図

HPV感染は誰にでも起こるありふれたこと

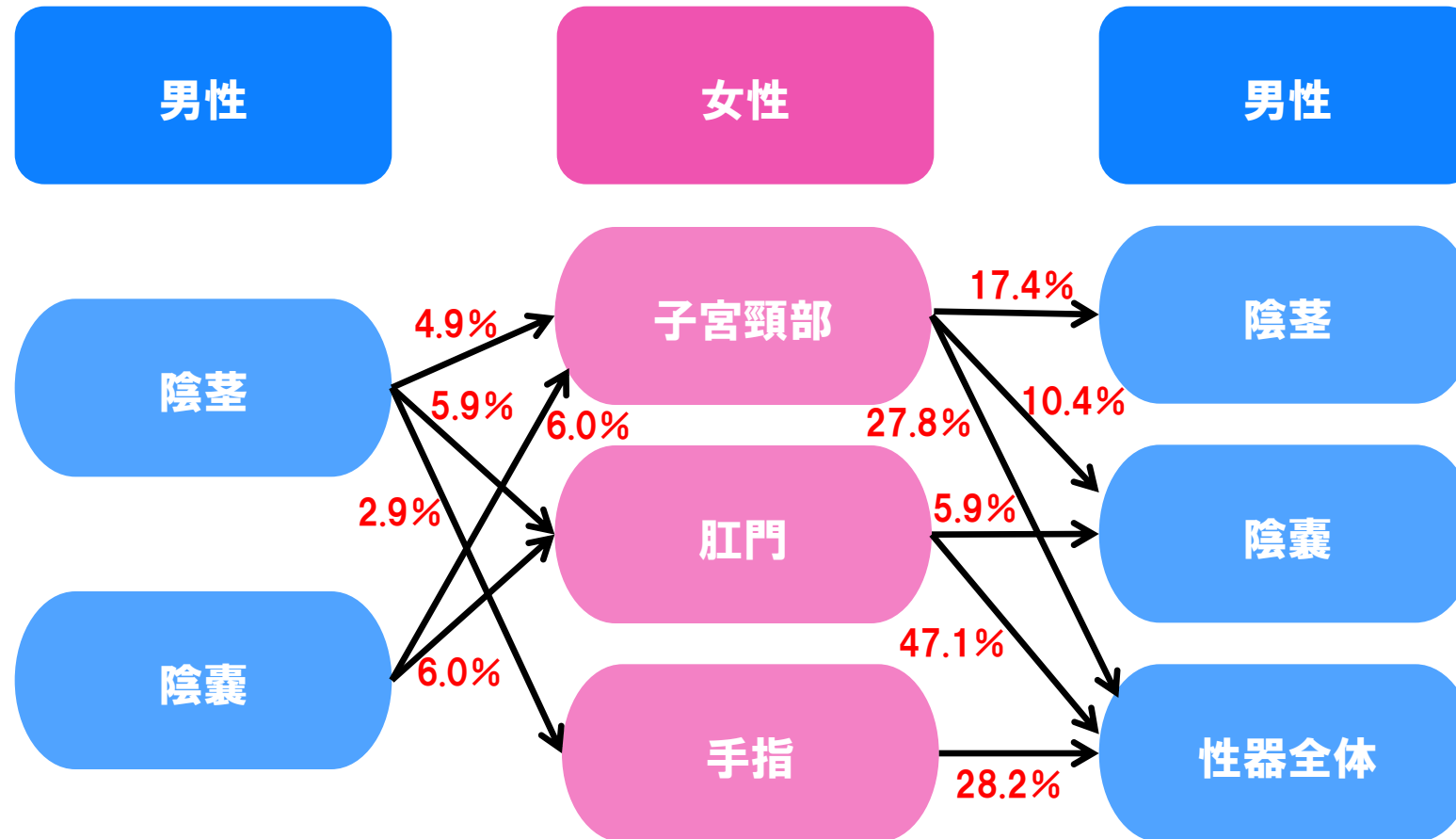
HPV陰性の女子大生を初交から追跡した試験 n=94



4年後には、**半数以上**がHPV陽性に

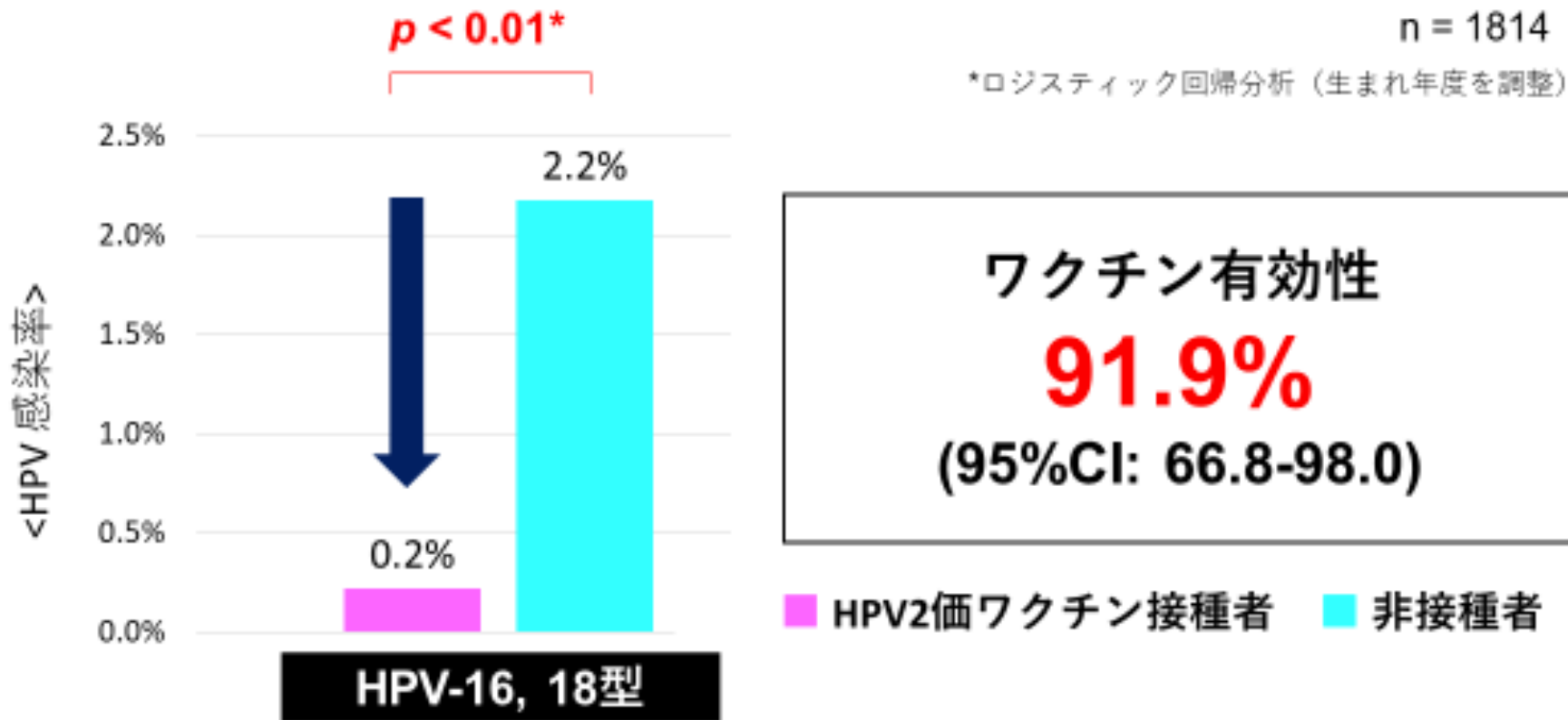
HPV感染はコンドームだけでは予防できない

男女間における100人・月あたりの伝播率
(ハワイの大学生25カップルを平均7.5月経過観察)



HPV16/18に対するHPV 2価ワクチンの効果

ワクチン接種者では、HPV16/18の感染率が**91.9%減少**した



新潟県におけるHPV 2価ワクチン接種者1,355人、非接種者459人 (20-22歳、2014-2016年度)

日本でのワクチン接種後の調査

-名古屋市における約3万人の調査（2015年） -
接種後に典型的に起こる24症状において、接種者と非接種者
で発症頻度に差はなかった¹⁾。

-厚労省研究班による全国調査（2016年） -
接種後の症状は非接種者でも一定の頻度で見られたとする
結果を公表。
ただし接種と症状の因果関係の有無については判断できない²⁾

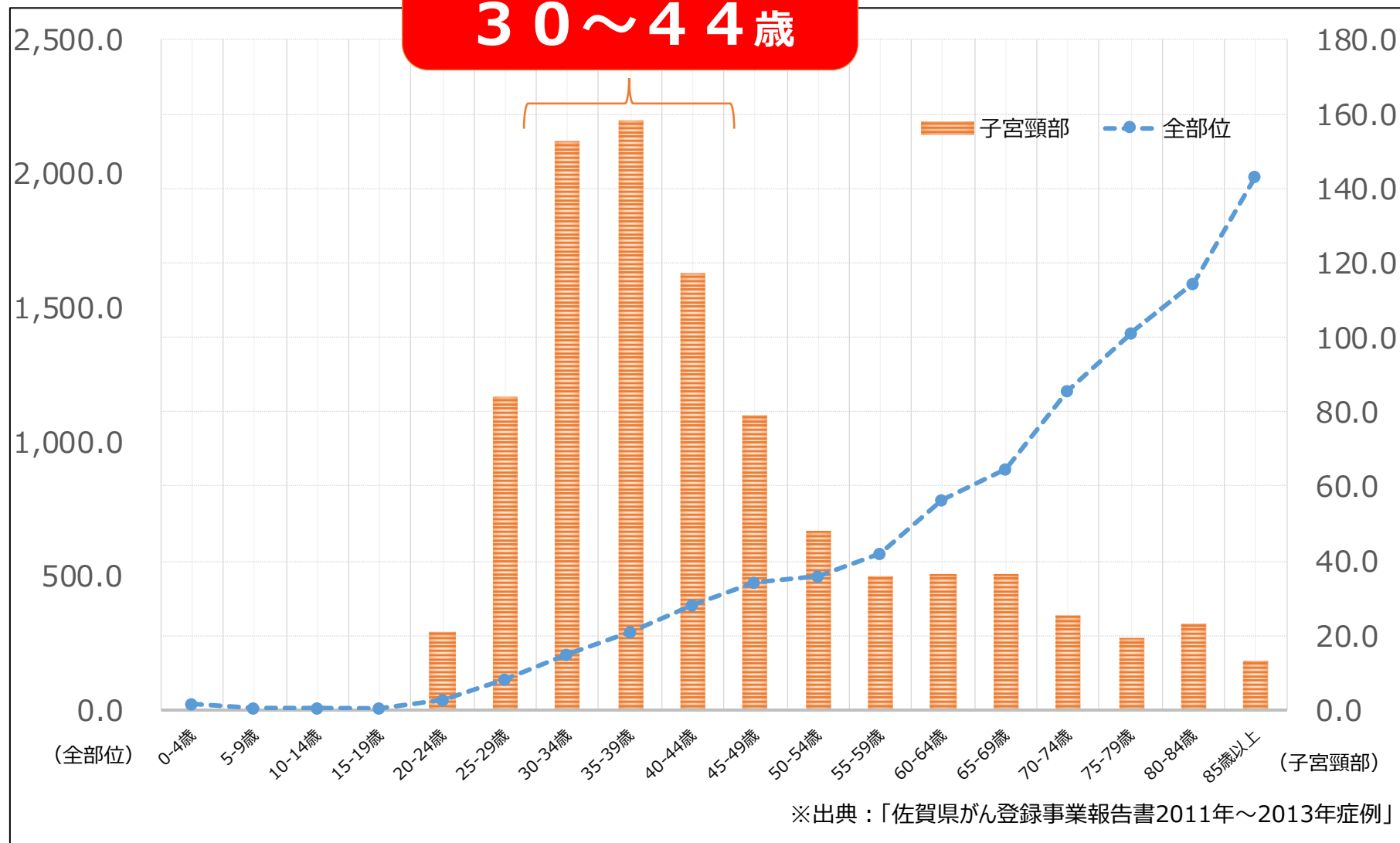
1) Papillomavirus Res:96-103,2018

2) 第23回 副反応検討部会 (2016年12月26日開催)
全国疫学調査(子宮頸がんワクチンの有効性と安全性の評価に関する疫学研究)

子宮頸がん年齢階級別罹患率の状況（3年平均）

罹患率のピークは
30～44歳

※上皮内癌を含む



事業概要案

目的

子宮頸がんはH P V（ヒトパピローマウイルス）が要因であることから、全県下で市町にHPV検査併用検診を導入してもらい、県が罹患率の高い30～44歳までのHPV検査を無料化することにより、佐賀県から子宮頸がんの撲滅を図る。

事業内容

子宮頸がんの罹患率が高い年齢層（30歳から44歳まで）の市町が実施する子宮頸がん検診（集団及び個別検診）でのH P V検査費用を無料化する。

事業期間

平成31年度～平成34年度（4年間）

※事業開始日：4月1日